

第4学年*組 音楽科学習指導案

指導者 久保田健一

R1 研修センター長期研修

1 題材名 五つの音を使って音楽をつくろう

2 題材の目標

- 音やフレーズのつなぎ方の特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどとの関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な反復や変化を用いて、音楽をつくる技能を身に付けることができる。
(知識及び技能)
- 旋律、反復と変化などの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、音を音楽へと構成することを通して、どのようなまとまりを意識した音楽をつくるかについて、思いや意図をもつことができる。
(思考力、判断力、表現力等)
- 音楽の仕組みを用いて、音楽をつくることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的に学習活動に取り組もうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

3 題材の授業計画 (5時間扱い)

次	時	学習内容・活動	指導上の留意点 (◎評価) 【評価方法】
1	1	<p>○4小節のリズムを組み合わせ、組み合わせたリズムに旋律をつけた音楽をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">音楽ってどうやってつくるのだろう？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・提示した8パターンのリズムを打つ。 ・リズムパターンを組み合わせ、4小節の音楽をつくり、作品を手拍子で演奏する。 ・つくった作品を「Scratch」に入力し、音を鳴らして確かめる。 ・三つの音を選び、つくったリズムに旋律をつける。 ・つくった音楽を確認し、相互鑑賞する。 <p>○本時のまとめと振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">音楽は、リズムとメロディー (旋律) からつくられる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で1学期に行った即興的なリズムづくりを行い、音楽づくりの方法の1つであることを伝えて、活動の動機付けを図る。 ・4分の4拍子で2小節程度の簡単なリズム例を幾つか提示し、音楽づくりの見通しがもてるようにする。 ・同じリズムを何度も使ってもよいことを伝える。 ・「Scratch」は、音符や休符を選択すればすぐに楽譜になったり、演奏を再現したりすることができるよう、あらかじめプログラミングをしたものを使用する。 ・始めは教師がつくった作品を例示し、活動の見通しがもてるようにする。 ・既習曲で使うことが少ないことから、三つの音は黒鍵を除いた音から選ぶよう、声を掛ける。 ◎努力を要する児童には、提示したリズムを順番に並べて組み合わせたり、ドレミの音を順番にして旋律をつけたりするよう、声を掛ける。 ・他の児童の作品を鑑賞することで、自分の作品との相違点や、音楽の多様性に気付けるようにする。 ・リズムに音階の要素を加えると音楽がつけられることや、音階の要素を加えたことで音楽表現の幅が広がったことを、児童の発言から引き出せるようにすることで、課題に迫れるようにする。 ◎音楽をつくることに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的に学習活動に取り組もうとしている。 <p style="text-align: right;">(甲) 【行動観察】</p>
2	2	<p>○五つの音を選んで、音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が前時につくった作品を例示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">音をふやして音楽をつくろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「Scratch」を活用し、前時に作成した4小節の音楽をもとに、五つの音を使って、旋律をつける。 ・つくった音楽を確認する。 ・どんなイメージをもって曲をつくったのか、ワークシートに記入する。 ・作品を相互鑑賞する。 <p>○本時のまとめと振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">音をふやすと、さらにいろいろな音楽を表現することができる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に児童が、順次進行を中心としてつくった作品、それ以外の特徴をもつ作品を例示する。児童の発言から、三つの音でも、様々な音楽のイメージが喚起されることに触れ活動の動機付けを図る。 ・三つの音を五つに広げた例を教師が示し、活動の見通しを児童がもてるようにする。 ・表現しなかった思いや意図、そのために工夫した点をワークシートに書き、他者に伝えられるように助言する。 ・他の児童の作品を鑑賞することで、自分の作品との相違点や、音楽の多様性に気付けるようにする。 ・自分の作品がどのように変わったか問い掛け、音の増加が豊かな音楽表現に結びついたことに気付けるようにする。 ・五つの音から構成されている楽曲の例を示し、身近な楽曲が同様の手法でつくられていることを知ることで、次時の活動に意欲をもてるようにする。 ◎旋律を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、音を音楽へと構成することを通して、どのようなまとまりを意識した音楽をつくるかについて、思いや意図をもっている。 <p style="text-align: right;">(乙) 【作品、ワークシート】</p>

3	<p>○「反復」や「変化」などの音楽の仕組みを使って、音楽をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「反復」や「変化」を使って音楽をつくらう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「Scratch」を活用し、1限目の八つのリズムパターンから譜例のような「音楽の仕組み」を使ったリズムをつくる。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">1 小節目 A</td> <td style="width: 25%;">2 小節目 A (反復)</td> <td style="width: 25%;">3 小節目 B (変化)</td> <td style="width: 25%;">4 小節目 C (変化)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・「Scratch」を活用し、つくったリズムに五つの音を選んで、旋律をつける。 ・つくった作品を確認する。 ・なぜ、このような「リズムにしたのか」や、「旋律をつけたのか」を、ワークシートに記入する。 ・作品を相互鑑賞する。 <p>○本時の振り返りを行う。</p>	1 小節目 A	2 小節目 A (反復)	3 小節目 B (変化)	4 小節目 C (変化)	<ul style="list-style-type: none"> ・「チューリップ」を例として提示し、身の回りの音楽にも「反復」や「変化」が使われている作品が多いことを伝える。 ・「チューリップ」を歌ったり、楽譜に注目したりすることで、「A-A-B-C」の構成に気付けるようにする。 ・児童が組合わせてつくったリズムを全員で確認しながら、「反復」と「変化」の知識の定着を図る。 <p>○五つの音が難しい児童には、三つの音でつくってみることを助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私は～を表現したいと思ったので、～の音(リズム)を使いました。」など、表現したかった思いや意図が他者に伝えられるように書くよう、助言する。 ・作品の感想を伝え合うよう、声を掛ける。 <p>◎音やフレーズのつながりの特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどとの関わりについて気付いている。 (因)【作品, ワークシート】</p>
1 小節目 A	2 小節目 A (反復)	3 小節目 B (変化)	4 小節目 C (変化)			
4	<p>○フレーズのつながりかたを考え、音楽をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">どうすれば、音楽を続けたり終わったりすることができるだろう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・3校時でつくった作品をもとに、「A」以外の小節の音を変化させて、曲が続く感じ、終わる感じになるようにする。 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">1 小節目 A</td> <td style="width: 25%;">2 小節目 B</td> <td style="width: 25%;">3 小節目 A</td> <td style="width: 25%;">4 小節目 C</td> </tr> </table> <p>※2小節目と4小節目の音を変え、半休止、完全終止の印象になる音楽にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つくった作品を確認する。 ・作品を相互鑑賞する。 <p>○本時の振り返りを行う。</p>	1 小節目 A	2 小節目 B	3 小節目 A	4 小節目 C	<ul style="list-style-type: none"> ・「茶色の小瓶」の4小節目と8小節目を入れ替えてリコーダーで演奏し、曲が続く感じ(半終止)、終わる感じ(完全終止)の違いを感じ取れるようにする。 ・自身がつくった作品をもとにすることで、音楽がどのように変わっていくのか、気付きやすくなるようにする。 ・どのような思いや意図で、その音やリズムを選択したのかから説明できるよう、助言する。 ・「Scratch」の特長を生かし、様々な音を試したり、リズムを変えたりするよう、助言する。 ・戸惑っている児童には、2小節目と4小節目の最後の音をそれぞれ違う音にしてみるよう、助言する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品を聞かせたり、他の児童の作品を聴きに行ったりするよう声を掛ける。 <p>◎音やフレーズのつながりの特徴について、それらの生み出すよさや面白さなどとの関わりについて気付いている。 (因)【作品, ワークシート】</p>
1 小節目 A	2 小節目 B	3 小節目 A	4 小節目 C			
3	<p>5 ○五つの音を使って音楽をつくる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「Scratch」を使って、自分だけの音楽をつくらう</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「Scratch」を使って、「反復」・「変化」などの音楽の仕組みを用いたり、「半終止」・「完全終止」のフレーズを感じられたりする作品をつくる。 <p>○相互鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品カードを記入してパソコンの前に置き、相互鑑賞する。 ・他の児童の作品を聴いた際は、その作品の感想をカードに記入する。 <p>○本時のまとめと振り返りを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">「音楽の仕組み」を使うと、自分の考えていることや、工夫したいと思うことを生かして、音楽をつくるができる。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだ「音楽の仕組み」(反復・変化・フレーズ)を確認する。 ・リズムは、これまで提示した8パターンを組み合わせるよう、声を掛ける。 ・戸惑っている児童に対しては、4校時の作品をもとにてもよいことを伝える。 ・作品に対する思いや意図、工夫点をカードに記入するよう伝える。 ・隣の児童と相互鑑賞し、感想を書くよう伝える。時間があれば、他の児童の作品を鑑賞し、感想を伝え合うよう助言する。 ・まとめでは、イメージしたことを音楽に表すためには、どのように音楽をつくれればよいか、考えを書くよう助言する。 ・振り返りでは、これまでの音楽づくりの活動を通して、できるようになったことや、今後の音楽の授業で活用していきたいことなどを書くように助言する。 <p>◎思いや意図に合った表現に必要な音楽の仕組みを使って、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。 (因)【作品, 行動観察】</p> <p>◎旋律、反復と変化などの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、音を音楽へと構成することを通して、どのようなまとまりを意識した音楽をつくるかについて、思いや意図をもっている。 (思)【作品】</p>				